

朝鮮半島の歴史や文化を学ぶ市民サークル「むくげの会」(灘区)の発行する機関誌「むくげ通信」が、通算300号を迎えた。紙面には、伝統音楽や食文化、地域史など会員の幅広い関心を反映し、

多彩な記事を掲載。1971年の創刊当時から参加し、サークル活動と共に半生を送った人もいる。会員は「学んだ知識をこれからも発信していきたい」と意気盛んだ。

(金 春草)

朝鮮半島の歴史、文化研究

灘 区
むくげの会は、ベトナム戦争の反戦団体「ベトナムに平和を!」市民連合(ペ平連)神戸の差別抑圧研究会を母体



通算300号で発達した「むくげ通信」を発行するむくげの会
会員=神戸市青年センター

「むくげ通信」通算300号

創刊49年 現代史、紀行…内容幅広く

当時、朝鮮をテーマにした文化サークルは珍しかったどいい、発足と同時に同通信を隔月で発行。日本の植民地支配などをテーマにした研究論文や、民主化を求める市民が懲りになつた80年の光州事件の時評などを掲載した。「人物朝鮮史」などの連載や朝鮮・韓国語の解説コーナーも。かつては文献の入手も難しかつたため、書籍などの翻訳や紹介にも力を入れた。

最近は、北朝鮮の歌謡史に名を刻む歌手や韓国最南端のリゾート地・済州島の紀行文、グルメ記事なども掲載。節目の300号では、長年投稿を続けた会員や読者の声を44ページにわたって特集した。

「政治的ではなく、文化運動に徹したから長続きした」と飛田さん。国内に残る朝鮮半島ゆかりの石造物について連載する深田晃二さん(72)=西宮市)=は、「学んだことを世に発信できる」とやりがいを感じる」と話している。

A4判。1部200円、年間1,800円。同センター

078-601-2160